

# 学校経営コース在籍の現職教頭先生に聞く

P3



## セミナー通信

—教育実習総合センター—

2014年



躍動の午年

### 学校着任後の新任教師の仕事

本学教職大学院には、学校づくりをリードする管理職や教育行政専門職を養成する「学校経営コース」がある。今回は、このコースで学ばれている秋田県出身の高橋正規先生（現小学校教頭在籍）を訪ね、新任教員の心構えについて取材した。（瀧綾）

#### 学校の教育方針を理解して『自分らしさ』を

瀧 始業式。子どもたちの輝く瞳を想像しながら、ドキドキ。子どもたちも「今度の先生は、どんな先生だろう。こわい先生かも...」やっぱドキドキ。さあ、教師の仕事の始まりです。



高橋先生 (教職30年。小学校教員、社会教育主任を経て小学校教頭)

高橋 ちよつと待った。実は始業式が始まる前から教師の仕事は始まっている。式までにする仕事は山のようにあるのです。秋田では、四月一日に初勤務。それから始業式までに新学期を迎える準備をしなければなりません。例えば、「学習指導面では学年の学習内容の確認、生徒指導面では掃除、係、給食などの当番の仕組みや座席の決め方、教室のロッカーや掲示物の準備、下駄箱の割当や名前入りステッカーの準備などの学習環境を整えること、出席簿の確認や指導要録に目を通すこと、学年通信、学級通信、校務分掌の引き継ぎ」など、挙げればきりがありません。皆さんは、教員採用試験でどのような子どもを育てたいかを考えてきたわ

けです。その強い意志をもって学校現場に臨まれると思います。始業式までに「学級経営案」を作成する人もいらつしやることでしょうか。



高橋 ちよつと待った。その瀧さんの心意気はとても素晴らしいです。でも、大切なことは、自分の方針だけでなく児童の実態を捉えるのはもちろんのこと、「学校の目標」や「学年の方向性」を確認してもらいたいです。

瀧 そうなんです。私の育てたい子どもは像はもちろんです。早急自分の考えを学級経営案に綴ります。高橋 そうですね。その瀧さんの心意気はとても素晴らしいです。でも、大切なことは、自分の方針だけでなく児童の実態を捉えるのはもちろんのこと、「学校の目標」や「学年の方向性」を確認してもらいたいです。学校全体で一人ひとりの子どもを育てていくわけですから、自分本位なものにならないように学年集団の先生方とコミュニケーションをとり、いい関係が築けるようにしましょう。前任者の学年には熟達教員が配置されるなど、様々な配慮のあるケースが多いと思います。何か悩んだ時やわからないことがあった時は、先輩の教師に謙虚に尋ねればきっと親切に教えてくださることでしょう。学校で育てていく方向性を子どもを安心して育てるための環境を作るためにも、学校を知り、協働する先生方のことを理解することが、始業式までに最低限求められることかも知れません。瀧 学校の組織力という視点が、特に重要な点ですね。

#### 秋田県の学力が高いヒミツ

瀧 文部科学省が実施している「全国学力・学習状況調査」では、六年連続トップの成績を収めている秋田県ですが、特別に何かされているのですか。高橋 そうですね。これから述べるこ

とは私見ですが、まずベテランの教員が多いことです。特に小学校では50歳前後の教員が多く、高い指導技術を持つ先生方によって学力保障ができています。瀧 それだけ熟練の先生がいれば大丈夫なら、子どもも保護者も安心ですね。



高橋 次に三世代、四世代の家庭が多いこと。最近核家族化してきまして、秋田は三世代家族も多いので、おじいさんやおばあさんなど様々な人と関わることで子どもの感情や情緒を豊かにし、モラル意識や生活習慣を自然と育むことができるのです。事実秋田県では、朝食を毎日食べている小学生が何と約98%と高い割合を誇っています。朝食をしっかり摂る習慣があるからこそ、毎日の学校生活を楽しく過ごすことができ、授業にも集中して取り組むことができるのです。

瀧 私も朝ごはんを食べて教壇に立つようにします。秋田県は地域の人も学校に協力的なんです。高橋 そのとおり。瀧さん、よく分か（右下段に続く）

### 新年を迎え 気持ち新たに 教採対策

#### P1

前日よりスタートした教採対策インタビュー。その二回目は、小学校教員養成特別コース三年次生のお二人、坂井麻希さん（大阪府小学校教員に合格）と松浦友輝さん（兵庫県小学校教員に合格）を迎え、体験談をお話いただきました。

#### 学習への取り組み



坂井 私は、まず自分の苦手なところを知ることが大切だと感じ、同じ問題を何度も繰り返して、苦手を箇所を少しずつ埋めていきました。

松浦 私は、一次対策として受験する自治体の「求める教師像」を分析することから始めました。また、自治体毎の過去問を解きながら、出題の傾向を知る努力をしました。坂井 学年が進むにつれ、学習時間の確保がしづらくなりました。そのため、

ってきましたね。秋田県は、学校、保護者、地域、行政のネットワークが強いんです。まず、地域の人が学校を大切にしている、学校の取組に対して常に協力的に参画してくださる方が多いんです。そのような保護者や地域の方の姿に影響を受けて、子どもも学校の取組に対して真面目にコツコツ取り組んでいます。

そのため、学校は経営方針や学校評価結果を積極的に公表し、学校への不信感を払拭し、信頼される学校づくりに努めています。秋田のような教育が日本全体に広がってほしいですね。本日は貴重なご意見、ありがとうございました。（甲賀翔太）

#### 考えを深めること

坂井 P1の終わり頃から、みんなでき「じめ」や「生徒指導」等の喫緊課題について、主体的に話し合う活動をしてきました。この取組が、自分の考えを見つめ直し、更に深めるきっかけになりました。松浦 加えて、コーディネーターの先生方のご指導で他コース生とも交流ができました。様々な意見を聞くことができました。お陰で幅広い観点から思考するようになり、積極性も培われたように思います。

#### 行動で示す

松浦 私たちは、真の学校現場の様子がわからないので、生の授業を観る機会を

#### 実習校訪問

#### P2



お世話になっております。

「実地研究口」もよろしくお願ひいたします。

求めたり、出来るだけ研究発表会に足を運んだりするなど、進んで教育現場に多く触れられるよう努力しました。そして、先生方の良いところを吸収し、自分の力に変えていきました。坂井 実地研究や授業参観を通し、絶えず自分ならば具体的にどう対応するかを意識しながら行動しました。同時に先生方からの様々なアドバイスを参考に、確固たる自分の考えを持つようになりました。

※お話を伺う中で、お二人とも今までの努力に、自信と誇りを持ってもらえるのがよく伝わってきました。私たちが、このような貴重な体験ができるよう、日々の生活を見直していきたいと思っております。（清友祥汰）

#### 恒例「結果後記」

今回、P3生は「学級経営」、P1生は「教採対策（第二弾）」について取材しました。ご協力いただいた高橋先生、坂井さん、松浦さんに心から感謝いたします。今年も、私たち院生にとって大活躍の年となるよう、チーム力を育みながら努力していきましょう。（城 智律）